深邃而與開山祖塔阻絶、衆病之久矣、師親相攸度榛除荒、新開徑直大路、而架橋梁于其上、扁曰通天、作偈賀之、曰、揮卻風斤支落霞、虹霓千尺截奔波、通霄一路脚跟下、來往人從鳥道過、衆咸和之、

〔都紀行一〕廿七日（文久四年正月、中略）、惠日山東福寺は五山の第一にして、（中略）通天橋は法堂より祖堂傳衣閣へ通路の橋なり、

〔和漢名數地理〕山城國大橋五（中略）　伏見豐後橋

〔山州名跡志十三紀伊郡〕豐後橋（本名桂橋）　在常盤町南二町餘、橋行百十間、北ハ紀伊郡、南ハ久世郡也、南ノ爪、左右ニ道アリ、左ハ至小柜、槇島、宇治、右ハ至奈良、其中間ハ至所々、不遑記、此橋及ビ南ノ方左右堤、共皆秀吉公ノ代所造也、

〔山城名勝志十六附錄紀伊郡〕豐後橋（元無橋、今曰指月橋、）

文祿中、豐臣秀吉公、命于豐後大友氏、始而令造之、故稱豐後橋、橋以南曰向島、自是經巨椋長池而通南都新道也、上古越伏見六地藏木幡宇治橋至栗子山、歷梨間井手而行大和也、

〔京羽二重四名橋〕豐後橋　本名桂橋、豐後橋町ニ有、橋行百十間、秀吉公の時ニ懸らる、橋の乾に別所豐後守亭宅有を以テ名とす、又肥後橋ハ加藤肥後守清正ノ宅有るに依て名く、毛利橋、阿波橋等皆同じ、

〔世俗淺深秘抄下〕一行幸時、淀河桂河浮橋渡御時、公卿幷近衛次將下馬、是定例也、

〔東寺執行日記〕寶德元年四月十二日、辰刻大地震動テ、（中略）桂橋二間落、

〔東海道名所記六〕ふしみに至る、此春ばかりすみ染にさけとよめる墨染の櫻を見て、左の方にゆけば、豐後橋にいたり、又は木幡にゆく、大和海道也、橋を渡り、小倉堤を過て、左にゆけば宇治に至る、

〔槐記〕享保十七年四月五日、知君樣宇治へ御成御供、四日夜ヨリ參上、明六ッ御出門、角倉船入ヨリ

豐後橋